

依存症に 正しく向き合う

— 予防、治療、回復 —

日時 2020年 **1/18** (土) 14:30~16:00
(開場 13:30)

場所 **学術総合センター内 一橋講堂**
(神保町駅 徒歩4分)

■ 依存症をめぐる最近の動き

東京都医学総合研究所 依存性薬物プロジェクト プロジェクトリーダー **池田 和隆**

米国でのオピオイド危機など世界的に薬物乱用問題は極めて深刻であり、日本でも問題が急拡大する可能性があります。また、2018年に特定複合観光施設区域整備法(IR法)やギャンブル等依存症対策基本法が施行され、依存症や行動嗜癖に対する社会的関心が高まっています。さらに世界保健機関(WHO)がゲーム症を新疾患とするなど、対応すべき範囲は拡大しています。このような社会状況の変化と問題に対して、日本学術会議において2017年にアディクション分科会(委員長:池田和隆)が設立されて、対策が検討されています。一方、東京都医学総合研究所では、国立精神・神経医療研究センターなどと共同で、依存症治療薬の開発を進めています。

■ 人はなぜ依存症になるのか～依存症からの回復のために必要なもの～

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長 **松本 俊彦**

人はいかなる快感にも呆れるほどすぐに倦む生き物です。それは、私たちの中枢神経系は悲しいほど簡単に刺激に鈍麻し、快楽に倦んでしまいやすい性質を持っているからです。それにもかかわらず、一部の限られた人たちだけがいつまでも倦むことなく、その物質を使い続けるのはなぜなのでしょう。こうした問いに対する一つの回答として、Khantzianの「自己治療仮説」という理論があります。今回の講演では、この自己治療仮説をもとに、人がなぜ依存症になるのか、そして、そこからの回復のために必要なものは何であり、依存症に苦しむ人たちのために私たちひとりひとりできることは何なのか、という問題について考えてみたいと思います。

■ 定員・申込方法

先着 500 名様 / 要約筆記あり

事前申込制 往復ハガキまたは電子メールにて(1通につき2名様まで)

往復ハガキは、〒156-8506 東京都世田谷区上北沢2-1-6 東京都医学総合研究所 事務局 研究推進課 普及広報係宛
住所、氏名(フリガナ)、参加希望人数、2名希望の場合は同伴者氏名(フリガナ)、電話番号を記入し、「第7回都民講座希望」とご記入ください。電子メールは、tomin@igakuken.or.jpへ、件名に「第7回都民講座希望」、本文に氏名(フリガナ)、2名希望の場合は同伴者氏名(フリガナ)、電話番号を入力してください。

※無効となる場合がございますので、記入漏れのないようご注意ください。

※スマートフォン、携帯電話からのメールによるお申込みの場合は、受信拒否設定の解除をお願いいたします。

※応募メールを送信してから、3営業日以内に弊所からの受付メールが届かない場合は、恐れ入りますが、迷惑メールフォルダをご確認ください。

迷惑メールフォルダにも不着のようでしたら、メールアドレス、本文、件名等を再確認頂き、メールの再送信をお願いいたします。

申込締切 **1月13日(月)必着**